

2021年(令和3年)12月24日(金曜日)

♡ 「当たり前」を見つめ直す
 人は誰も、自分一人の力で生きていくわけではありません。衣・食・住のすべてにおいて、また、そもそも自分が今ここに存在するということが、社会の人々や親祖先、そして大自然を含めた多くのものの「おかげ」であるのです。私たちは、まさに「生かされて生きていく」といえます。その数限りない恩恵を自覚するとき、「ありがたい」という思いが湧(わ)き起こり、心豊かに暮らすことができるのではないのでしょうか。例えば食事をするときも、目

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉 3.6.6日』

の前の食物の背後にあるさまざまな「おかげ」の存在を思うだけで、今まではまったく違った気持ちで味わえることでしょうか。自分が何をすることも、背後に必ず「おかげ」があることを思い、家族だから当たり前、お金を払ってサービスを受けているのだから当たり前、などと考えることなく、日ごろ「当たり前」になっている物事の一つ一つを見つめ直していきたいものです。

掲載日から7日間限定で10名様にプレゼント!

道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
 公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1
 E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)12月31日(金曜日)

♡ 大晦日の夕日に感謝する
 Tさん(七二歳)は以前、南蔵院(なんぞういん)というお寺を訪ねたとき、住職の林覚乗(はやしかくじょう)師の「夕日」という書に出会いました。「正月に初日の出を拜む人は多いが、大晦日(おおみそか)の夕日を拜む人は少ない。毎年大晦日の夕日を眺め、お天道様、今年一年ありがとうございました、と感謝できる人こそが豊かな人生を送ることができないか」というものです。その年の大晦日からこれを実践するようになったTさんは、こ

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉

『ニューモラルの心を育てる言葉 3.6.6日』

う語ります。「初日の祈りは、やもすると今年一年がよい年であるように」という要求心が起りやすいものですが、一年最後の夕日を拜むのは、一年の出来事に対して、ただ「ありがたいございました」の一念だけなのです」と。一年が過ぎようとするこの時期、「恩」について考えてみることは、新しい年を迎えるうえで、有意義のあることではないでしょうか。

掲載日から7日間限定で10名様にプレゼント!

道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
 公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1
 E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155